

「大切な水を守るために」

入賞
小田原市立桜井小学校

くろ やなぎ ゆう た
黒 柳 佑 太

「ゆうた、シャンプーの量もう少し少なめにしなさい!」お母さんとお風呂に入るとよく言われる言葉です。ぼくはいつもその言葉をうるさいと思っていました。しかし、今回下水道について調べていくうちにお母さんの言葉の意味が少し分かってきたような気がします。

ぼくたちが使って汚くなった水を汚水や下水といいます。使われた水は汚水管をとって下水処理場に集められます。下水処理場では下水の汚れを取りのぞきます。そして下水についているドロをセメントの原料に再利用し、消毒してきれいな水になるのです。なにげなくぼくが使っていた水は、このようにたくさんの人によって、いろいろな手間が加わって、きれいになっていたのです。

ぼくは、下水道や水についてもっと知りたくなり、本を何冊か借りて読んでみました。日本のようにじゃ口をひねればすぐきれいな水が出たり、使われた水がきちんと浄水されたりする国は世界的にはまだ少ないようです。下水処理場で水をきれいにするには費用がかかるため、多くの国では、思うように処理場を作ったり運営したりすることができません。その中には、下水の90%をまったく処理しないまま、上水道の水源に流している地域もあります。飲料水が原因で病気がはやり、死者がでることもあるそうです。いつでもきれいな水が飲める日本は、とてもめぐまれていると思います。

ぼくは、きれいな水のありがたさに気付くいつまでもきれいな水が飲めるようにするために自分に何ができるか考えてみました。

まず、一つ目は、シャンプーを少なめに試してみることにしました。いつもより少ない量でも十分にあわがたち、きれいに洗えることが分かりました。

二つ目に、歯みがきをする時、水を出しっぱなしにせずコップを使いました。約30秒間水を流しっぱなしにすると6Lの水が流れでます。コップを使えば、多くても0.6Lで済むので10倍もの水を節約できるのです。

三つ目に、夏の間は浴そうにお湯をはらずにシャワーで済ませることにしました。

水はとても大切な資源です。料理をするときや体を洗うとき、そうじをするとき、トイレの水を流すときなど、ぼくたちの生活の中でかかせない存在です。しかし、水にはかぎりがあります。その上、一度汚れた水をきれいにするには、たくさんの人の手間はもちろんお金もかかります。ぼくはこれからも大切な水を守るために、できることをみつけ、どんどん実践していくつもりです。より多くの方が水の大切さに気づき、水を大事に使うことを願います。

いつか一人一人の努力が実り、世界中のみんながきれいな水を飲める日がきますように。